

第五章

贈る言葉



この純なるもの

アメリカの未来学者、ヘンリー・ステイルは、「人間これからの三十年」という書物の中で、次のように述べています。

「三十年後には、宇宙服を着て、月のクレーターでダイヤモンドをさがすが、ジェット機仲間のもっとも一般的なスポーツになるだろう」。

遠いかなたに、美しいもの、シンボルとしてあった月に、どんな宝物があるかは不明ですが、三十年後には、私どもも月に旅行し、月の石を見、その中に秘められているダイヤモンドを発見できるかもしれません。それまで生き続けたいものです。

うららかな陽春の訪れとともに、暁星学園幼稚園も創立二年め、新しい学年をスタートさせた喜びは大きい。三歳から五歳までの百七十名の幼児の元気でいきいきとした生命力、日ごとにのびていく姿に、新鮮な感動をおぼえます。筆舌にたくしがたい充実感、満足感を味わっています。

月の世界ではなくとも、私どもは、この神の傑作としての、神秘的な存在である人間——幼児たちの中に、はかりしれない宝物を発見できます。かれらの態度、ことば、そして汚れを知らぬ顔、じゅんぽくそのものの心は、美しさに輝いています。私どもが指導する前に、この子どもたちは、おとなである私どもにたくさんのことを教えてくれます。この限らない宝庫である幼児たちに接して、その中に秘められているタレントをひき出し、善き人間に成長させることが、指導する者たちにとっての最大の義務であると信じています。したがって、先生がたは全能力、全才能を結集して保育に専念していただきたいと思えます。

暁星には、暁星の伝統があり、個性があります。その伝統・個性を最大限にいかして、ここにつどうすべて

の人々に、暁星の香気を感じさせるような美しい学園にすべく努力していただきたいものです。

(一九七〇年四月十七日幼稚園会報「エトワール」)

信念こそ美果を産むもと

はじめに——反省と感謝を

月日は容赦なく過ぎてゆき、希望の中にスタートした一学期も、まさに終ろうとしています。

隣接のプールに、新鮮な水がみなぎり、みなもを渡る風がいちだんと強烈に光るころともなると、やがて、楽しい夏休みが訪れてきます。すず風につつまれて園児たちの眼は生き生きと輝きます。

三歳、四歳、五歳の園児たちは、この三か年間、楽しく幼稚園に通い、子どもなりにさまざまの体験を積みました。彼らが共同生活を通して、しだいに個人的生活から脱却し、規則という愛の掟に気づき、他人の存在をも認めて、愉快に暮らし、たくましく成長し、向上してゆく姿は、私どもにとつて、限らない喜びであり、大いなる責任を感じずにはいられません。

一学期が終わる前に、私ども一人ひとりが、一学期になした努力を反省し、美果の収穫を喜ぶとともに、不足の点、いたらないところを補う研究と修養に努めねばなりません。そして、使命の遂行にまいしんできたことに対して感謝の念を新たにしつつ、楽しい夏休みにはいつてゆきたいと思えます。

